

乳児院で実習を行う学生が乳児保育体験をしました！

准教授 鈴木崇之



筆者が担当している保育実習Ⅲでは、何らかの理由があつて家族とともに暮らすことができない乳幼児が生活している「乳児院」で実習を行う予定の4年生が2名おります。今回はその2名とともに、実際の乳児を相手にした乳児保育の練習のために、子どもを産んだばかりのお母さん（元・保育士）のお宅を訪問してきました。

学生たちは小児保健実習という授業で人形を使つての乳児保育体験は経験済みでしたが、実際の赤ちゃんへの支援は初めてでした。

2時間少々でしたが、実習内容は多岐に渡りました。「うんちをしたばかりだからちよつど良かったわ〜」とお母さんとの挨拶もそこそこに、学生たちはうんちの処理とオムツ交換から保育体験をスタートしました。

「両足を片手で支えて、お尻の後ろのほうの汚れもふき取ってあげてくださいね」とお母さんから助言を受けても、動いて、泣く、実際の赤ちゃんにほとんど初めて触れた学生たちは赤ちゃんの足をささげ持つだけでおっかなびっくりです。「オムツを換えたら、横モレ等しないように腿のまわりのギャザーを指でチェックしてくださいね」、実際の赤ちゃんで体験しないとなかなかわからないところまで、丁寧に指示を受けながら作業を進めます。

その後、だっこの仕方、だっこ紐の使い方、ベビーカーでのお散歩（外気浴）と、準備していただいていた乳児保育体験メニューを次々こなしてきました。

やっと慣れてきたところで赤ちゃんはお昼寝の時間となってしまいましたが、うまくいかなかった経験も含め「実習前に体験しておいて良かった」と学生たちは満足げな様子でした。

